

## 医学会 グラント 報告書

## 2024年度医学会 国際学会参加支援グラント報告書

## Digestive Disease Week® (DDW) 2024 に参加して

研究代表者 宮口 和也 (医学部 埼玉医科大学病院 消化器内科)



ホワイトハウス前にて

この度、2024年5月18日～23日にかけてアメリカ、ワシントンDCで開催された、「Digestive Disease Week® (DDW) 2024」に参加いたしました。新型コロナウイルス流行後初めての現地での国際学会の参加となりました。

学会の参加に際して2024年度埼玉医科大学医学会 国際学会参加支援グラントに採択いただき、支援を賜りました。

関係者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。また本研究に際してご指導いただきました当教室の今枝博之先生、都築義和先生、研究にご協力いただきました患者様に深く御礼申し上げます。

今回、私は5月20日のTopic Forum Session (What is the Evidence Telling Us in 2024? RCT's In AI in Endoscopy)にてARTIFICIAL INTELLIGENCE-ASSISTED LINKED COLOR IMAGING VERSUS LINKED COLOR IMAGING FOR COLORECTAL ADENOMA DETECTION: THE RANDOMIZED CONTROLLED TRIALをオーラル発表で行いました。

大腸内視鏡の課題として大腸ポリープの見逃しが問題となっています。大腸腺腫検出率 (Adenoma Detection Rate; ADR) は、大腸癌の発生率を低下させ、大腸内視鏡検査の質を評価するための重要な指標と言われており、白色光イメージング (WLI) は病変の検出に使用されてきました。

近年、LASEREO システムの画像強調観察の一つである Linked Color Imaging (LCI) の使用が高い ADR につながっていることが報告されています。当科でも慶應義塾大学、杏林大学との多施設前向き試験で LCI が WLI と比較して 1 回検査あたりの腺腫検出数 (Adenoma Per Colonoscopy; APC) が高いことを報告しました。さらに Artificial intelligence (AI) を用いた RCT も既に報告されており、ADR の向上が示されています。

今回、我々は ADR を向上させる因子として LCI と AI 支援システムに着目した世界初の RCT を行いました。LCI による内視鏡検査単独群と AI 併用群で ADR および APC を評価し、ADR では (58.8% vs. 43.5%,  $p=0.001$ )、APC では ( $1.13 \pm 1.65$  vs.  $0.94 \pm 1.42$ ,  $p=0.001$ ) といずれにおいても、内視鏡経験年数にかかわらず LCI 単独群に比べ LCI、AI 併用群で有意に高いことが証明されました。また特に平坦な病変、上行結腸、 $\leq 9$  mm の病変で有意差を認めました。

今後の研究の発展につながる意見を数多くいただくことができ、非常に有意義な学会になったと感じております。これからも国際学会での発表を通して、自身の研究成果の発信を継続していきたいと思っております。

今回、初めての国際学会への参加、また現地でも一人ということもあり、英語で研究内容の説明やディスカッションを行うことに、大変苦労しました。

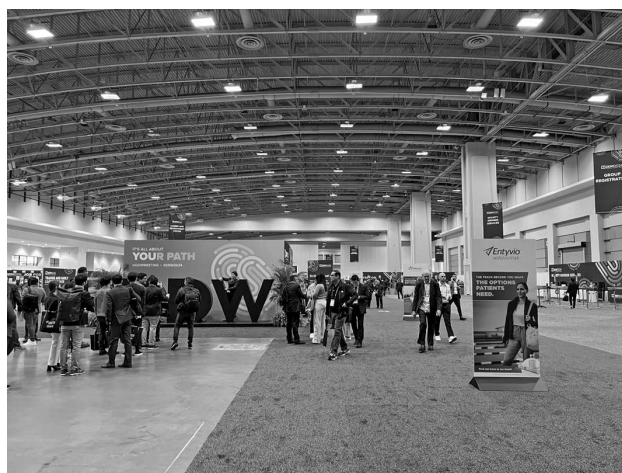
この学会のために英語を毎日こつこつと勉強してきましたが、特に質疑応答では、自分の言いたいことを相手にスムーズに伝えることができず、英語学習を今後もつづけなければならないと向上心に拍車がかかりました。

ワシントンは高校生以来 2 回目の訪問で、文化、歴史、政治、多様性が融合された活気ある街である印象でした。一人で食事をしていると現地の方が隣に座り一緒に食事、会話を楽しむなど海外ならではの貴重な経験もしました。

また、学会全体では、企業展示ブースの規模の大きさや最新の研究結果が大きくアピールされており日本の学会との違いを感じました。著名な先生方の講演や他国の研究者の発表を聴講し、臨床研究へのモチベーションが刺激されました。引き続き消化管の臨床研究に精進していきたいと考えておりますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



発表会場



メインホール



私が発表したオーラル会場